

2005年1月号

農林漁業金融公庫 八交会通信 掲載

平成17年1月号
第27号

八交会通信

八戸地区情報交換連絡会事務局
農林漁業金融公庫

新春特別レポート

「第88惣寶丸進水式—新たなまき網漁業の確立に向けて—」

新年明けましておめでとうございます。

今回は新春にふさわしくおめでたい話をお届けしたいと思います。

みなさまご存知のとおり、八交会の福島会長は大中型まき網漁業を中心とした漁労会社㈱福島漁業を経営されています。

平成16年12月3日(金) ㈱福島漁業の新しい大中型まき網本船第88惣寶丸(300t)が進水しました。この船は、本船の大型化・運搬船化により2隻1船団による操業を目指しており、新しい大中型まき網漁業のモデルとして各方面から期待され注目を集めている船です。農林漁業金融公庫からも進水式に出席させていただきましたので、その模様と第88惣寶丸の概要をお伝えします。



●希望の船出

第88惣寶丸の進水式は、12月3日(金)に静岡県静岡市にある造船所でとりおこなわれました。当日は12月とは思えないような穏やかな日和で抜けるような青空のもと、大勢の人が進水式に参列しており本船にかかる関係者の期待と関心の高さを感じさせられました。

朝9時から始まった進水式では、おごそかに神事がとりおこなわれ、福島社長による命名を経て、福島社長令夫人の支鋼切断により、参列者のどよめきのなか第88惣寶丸はすべるように進水していきました。

はるか遠くに日本一の富士山を望みながら、ブルーの惣寶カラーに塗り上げられた本船が堂々と水面に浮かぶ様は、新しいまき網漁業の船出を感じさせるものでした。進水式に引続き祝賀会が開催され、福島社長から「10数年来考えていたことが水産庁の構造改革船としてやっと実現した。関係各方面に心より感謝申し上げる。これからは資源にやさしい漁業を展開していきたい。」とのごあいさつがありました。



●新たなまき網漁業に向けて

第88惣寶丸の概要について、あらためてここで紹介させていただきます。

従来、大中型まき網漁業は本船(網船)1隻、探索船1隻、運搬船2~3隻の1ヶ統4~5隻で操業を行ってきました。しかし、水産資源の悪化による徹底した資源管理が行われている状況下で、従来どおりとにかくたくさん魚をとるという漁業は成り立ちにくくなってきています。そこで、水産庁の「漁船漁業構造改革推進会議」で新しい漁業形態について検討が重ねられ、今後の新たなまき網漁業の形態として2隻1ヶ統のミニ船団化が打ち出されました。

今回の第88惣寶丸はこのミニ船団化の第1号船として建造されたもので、本船と運搬船の2隻で1ヶ統として操業するというまったく新しいまき網漁業の確立を狙っています。

第88惣寶丸船団は、少ない漁獲の中で、船団構成隻数を減らすことによる人件費、燃料費等のコスト削減、冷凍設備を持たせることによる漁獲物の高付加価値化、船の大型化による作業スペース拡大と乗組員居住空間の充実等資源と働く人にやさしく持続可能な漁業の確立を目指しています。

●最後に

第88惣寶丸は、現在造船所において機器の取付け等を行っており、今年3月に八戸港に回航予定とのことです。お時間があれば八戸港まで足を伸ばしてその雄姿をぜひご覧ください。

最後になりましたが、第88惣寶丸の航海の安全と大漁を心からお祈りしております。

(業務第二課長 宮田和浩)